

魅力発信！えひめ農業

令和6年6月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興

※2 この動向は、6月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

目次

目次	1
6月のトピックス5選	3
水田自動給水機、アイガモロボの現地説明	3
さといも種芋の新たな低コスト増殖技術の開発に向け大手メーカー等と協議	3
農業女子がドローンによる肥料散布を研修	4
「河内晩柑」の作業性改善と園地再生に向けたカットバック研修会を開催	4
栽培面の魅力もアップ！—媛小春の研修会—	5
えひめ農業	6
■東予地方局 地域農業育成室	6
新規就農者が家族経営協定を締結	6
さといも部会で緑肥推進	6
ふるさと小包「土のめぐみ」発送に向けて	7
■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	7
畑野集落で鳥獣害対策の検討を開始	7
やまじ丸産地振興対策検討会を開催	8
■東予地方局 産地戦略推進室	8
石鎚黒茶の製造技術継承に向けて	8
アムスメロンの貯蔵試験を開始	9
■今治支局 地域農業育成室	9
いちご若手生産者で技術研究会を発足	9
特産なしをニホンザルから守るモデル園を設置	10
都市型集落営農組織のむらづくり活動を報告	10
今治地区かんきつ生産者を巡回指導	11
■今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班	11
上浦地区再編復旧園の整備計画を協議	11
スリランカ農業人材の受け入れを協議	12
かんきつ類の摘果講習会を開催	12
■今治支局 産地戦略推進室	13
「しまなみみんなのディッシュ」商品を県外企業に営業活動	13
■中予地方局 地域農業育成室	13
モデル集落から広げるイノシシの被害対策	13
ユーカリ栽培技術の向上と有望品種の検討	14
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	14
スマート田植機で省力化や効率化を体験	14
■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	15
トマト新品種の導入について研修	15
雑穀の生産拡大に向け苗を配布	15

地域住民が雑穀を使用した「クマ式きび ² ナン」を調理.....	16
■中予地方局 産地戦略推進室.....	16
パクチー初夏播き栽培は生育順調.....	16
シンテッポウユリの需要期安定出荷に向けて.....	17
■南予地方局 地域農業育成室.....	17
「ひめの凜」の高品質生産を目指して水管理等を確認.....	17
着果状況に応じたかんきつの摘果を徹底.....	18
令和6年度第1回ニューファーマー講座の開催.....	18
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班.....	19
花粉用キウイフルーツのせん定技術を指導徹底.....	19
「紅まどんな」の生育順調！.....	19
■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班.....	20
小中学生が愛南ゴールドを使ったフルーツパフェの調理体験.....	20
■南予地方局 産地戦略推進室.....	20
道の駅みま出荷者巡回.....	20
つるむらさきレシピ集の開発協議を実施.....	21
■八幡浜支局 地域農業育成室.....	21
ドローンを活用したスプリンクラー防除時の見回り作業の省力化.....	21
外国人材活用促進に向けて.....	22
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班.....	22
規模拡大に向け自前のシソ乾燥作業をスタート.....	22
いちご部会技術研究会で天敵防除を検討.....	23
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班.....	23
西予市で2戸の農家が家族経営協定を締結！.....	23
大野ヶ原にんにくの収穫作業を子供たちが体験！.....	24
■八幡浜支局 産地戦略推進室.....	24
さといも栽培講習会で管理ポイントを周知！.....	24
■農産園芸課 高度普及推進グループ.....	25
「さくらひめ」および花木の技術的課題について協議.....	25
県育成水稲品種「ひめの凜」中干し講習会の開催.....	25

6月のトピックス5選

標 題	水田自動給水機、アイガモロボの現地説明		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年6月28日	場所	西条市（JA周桑及び丹原町川根）	
指導対象	管内の水稲栽培農家（11名）	連携機関	NPO法人さずな JA周桑 川根集落営農組合 井関農機(株)	
普及指導内容	<p>○NPO法人さずなとJA周桑が連携して開催した「第1回オーガニック勉強会」において、当室からスマート農業技術開発・普及促進事業で現地実証中である水田自動給水機の使用状況を説明した。</p> <p>○井関農機株式会社からは、アイガモロボの水田における抑草効果と現在開発中の新型機の紹介があり、NPO法人と協力関係にある川根集落営農組合の水田において、3～4週間実演することとなった。</p>			
結果と今後	<p>○自動給水機は、導入コストが課題であるが、遠隔地水田や多くの管理水田を持つ生産者の水管理作業の省力化につながることから、今後とも現地実証結果を通じて、その優位性を生産者に紹介していく。</p> <p>○アイガモロボについては、関係者と連携し、水田中期以降の抑草効果と雑草の発生状況等を確認していく。</p>			



自動給水機の設置状況



新型アイガモロボの説明



水田内を進むアイガモロボ
(ブラシで土を掻きながら走行)

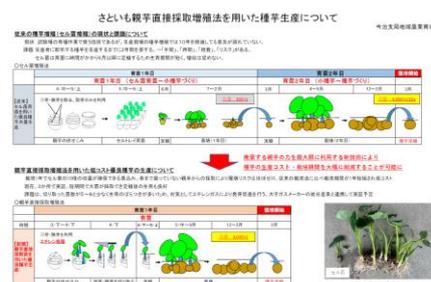
標 題	さといも種芋の新たな低コスト増殖技術の開発に向け大手メーカー等と協議		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年6月13日	場所	今治支局3階会議室	
指導対象	さといも生産農家（5人）	連携機関	岩谷産業(株)、伊予農産(株)	
普及指導内容	<p>○さといも優良種苗の新しい増殖技術の確立に向け、県外の手メーカー及び県内種苗会社と、今後の栽培実証や役割分担等に係る協議を行った。</p> <p>○この取組みは、さといもの親芋から直接苗を採取することにより、短期間、低コストで種芋を生産するもので、種芋の萌芽促進のため植物ホルモン（エチレングス）を活用する新技術として市内5か所に実証ほを設置しながら技術確立を進めている。</p>			
結果と今後	<p>○協議では、地域農業育成室が考案した新しい増殖法を説明するとともに、メーカー側からは、じゃがいもで得ているエチレングス活用の知見が述べられた。</p> <p>○東予発の新たな優良種苗生産技術の確立と生産体制づくりに向け、引き続き、関係機関やメーカーと連携した活動を精力的に進めていく。</p>			



新増殖法の説明



今後の実証計画に係る協議



新増殖法の説明資料

標 題	農業女子がドローンによる肥料散布を研修		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年6月25日	場所	松山市興居島	
指導対象	若手女性農業者組織「しとらす」(11人)	連携機関	(株)松田包装	
普及指導内容	<p>○若手女性農業者が、急傾斜のかんきつ園でドローンを利用した肥料散布の研修会を開催。</p> <p>○島しょ部のかんきつ園は急傾斜地が多く、加えて、20kgある重い肥料袋を運ぶことは、女性にとって大変な負担となっている。</p> <p>○このため、当室が支援し、約1haの伊予柑園でドローンに施肥散布機を装備したもので実演し、省力化や効率化について検証した。</p>			
結果と今後	<p>○ドローンで園地を測量すれば、自動操縦により肥料の散布が可能となり、散布時間は大幅に短縮できるが、1回に搭載できる肥料は20kgであることから、肥料の運搬に時間を要するなどの課題が残った。</p> <p>(今回：肥料80袋、散布時間約20秒/回、運搬の往復約3分/回)</p> <p>○参加者からは、「人の手による施肥作業を考えると、かなり楽になり夏場は助かる」とドローンの活用に期待を寄せていた。</p> <p>○当室では、スマート農機の利用による労力軽減などにより、働きやすい作業環境への改善や女性農業者の活躍できる場を創出する。</p>			
<p>【しとらす】 農業技術等の向上を図るため、松山市興居島の若手女性農業者(11人)で構成する組織。</p>				<p>ドローンによる肥料散布</p> <p>ドローンの操作方法を学ぶ</p>

標 題	「河内晩柑」の作業性改善と園地再生に向けたカットバック研修会を開催		機関名	南予地方局愛南農業指導班 " 地域農業育成室
年月日	令和6年6月3日	場所	愛南町御荘平山	
指導対象	愛南地区青年農業者協議会員(11人)	連携機関		
普及指導内容	<p>○愛南町のかんきつ基幹品種「河内晩柑」は、高樹高の老木が多いことに加え、密植による作業性低下が課題となっているため、樹高切下げによる作業性改善と園地再生に向けたカットバック研修会を開催した。</p> <p>○「河内晩柑」は樹勢が強く、カットバック後3～4年目から収穫可能で、防除や収穫等の軽労化が図れるとともに、樹の若返りによる収量増加が期待できることを説明。その後、園地状況や空撮画像を元にカットバックする樹を決め、実技研修を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○実施後は園内移動が円滑になったほか、各樹の受光態勢も向上し、園主は「密植が解消されて作業効率が格段に上がると思う」と今後の栽培管理に意欲的であった。</p> <p>○今後、カットバックした園地の収量性等を調査し、青年農業者協議会の活動に合わせて、作業性改善と樹の若返りによる園地再生の必要性を提案していく。</p>			



効果について説明



実施園地の空撮画像(左：実施前 右：実施後)

標 題	栽培面の魅力もアップ！—媛小春の研修会—		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室 南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年6月25日	場所	八幡浜市内	
指導対象	「南予の媛小春」魅力アップ協議会 員（26人）	連携 機関		
普及指導 内容	<ul style="list-style-type: none"> ○県オリジナルかんきつ「媛小春」の安定生産を目指しつつ、協議会員等の連携強化を図って生産拡大を進めるため、夏季現地研修会を開催した。 ○本年の着果状況等の調査結果、優良園地での栽培状況などについて意見を交わした。 ○同園地では、ヒリュウ台木の活用やせん定方法の工夫などで樹勢をコントロールできれば、安定生産につながり高い収益が得られる可能性があるとして説明した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○「作りにくいという負のイメージを持っていたが、この研修で変わった」「栽培面積を拡大してみたい」などの声が聞かれ、大変好評であった。 ○今後は、着果率やせん定方法等の調査を通じて着果安定技術の確立につなげるとともに、魅力を最大限生かしたPRや販売支援に努める。 			

【ヒリュウ台木の活用】

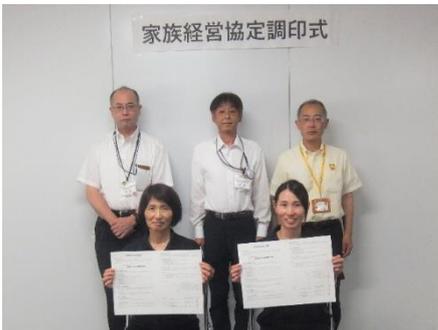
「媛小春」は一般的な台木であるカラタチ台では樹勢が旺盛で、着果が不安定となったり、大木化したりといった問題があることから、県では、わい性のヒリュウ台木の活用により樹勢を抑え、低樹高で連年安定生産を可能とする技術の普及を進めている。



ヒリュウ台木園の園主から栽培概要を学ぶ

えひめ農業

■東予地方局 地域農業育成室

標 題	新規就農者が家族経営協定を締結		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年6月18日	場所	西条市役所	
指導対象	新規就農者（1戸）	連携機関	西条市	
普及指導内容	<p>○令和6年4月に新規就農した農家から「三世代それぞれの農業経営の役割分担の明確化を図りたい」との相談を受け、当室が、家族経営協定について説明・提案したことにより、締結することとなった。</p> <p>○祖母、母、本人の役割分担をはじめ、毎月14日の家族会議や毎月5日程度の休日をつけること等を盛り込み、関係機関立会いのもと、協定書に署名捺印した。</p>			
結果と今後	<p>○当室では、早期の経営安定に向けた栽培技術指導、経営支援を行う。</p> <p>○今回の締結により、西条市における家族経営協定数は49件となった。</p>			
				
		<p>左：調印する新規就農者</p> <p>右：立会人と記念撮影</p>		

標 題	さといも部会で緑肥推進		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年6月26日	場所	JA えひめ未来新居浜経済センター	
指導対象	JA えひめ未来新居浜さといも部会（15人）	連携機関	JA えひめ未来、県農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○3年前から問題となっているさといもの乾腐病について、当室では、薬剤による土壌消毒の代替となる、緑肥を活用した技術対策について部会の中で提案した。</p> <p>○合わせて、農林水産研究所から、令和6年産さといもについて、県下の植え付け状況や今後の栽培管理のポイントについて技術指導した。</p>			
結果と今後	<p>○部会員からは、「住宅地に隣接するほ場が多い新居浜市では、防除前には住民に事前にお知らせするなど気を遣っていたが、農薬と同等の効果があれば、省力化と低コスト化に加え、環境負荷低減にもつながる」と関心を寄せていた。</p> <p>○1名の生産者が導入予定で、さらに1名の生産者が検討するなどの反応があったため、今後は導入農家で実証効果を把握するとともに、緑肥の播種時期やほ場水分量など栽培条件による辛味成分量の違いを測定し、効果的な導入方法を調査する。</p>			

【緑肥による乾腐病抑制効果】

緑肥は辛味成分を多く含むアブラナ科の植物を用いる。辛味成分であるグルコシノレートは、植物を細かく裁断して土壌にすき込むことにより、土壌水分と反応して、土壌くん蒸剤バスマイドと同物質であるイソチオシアネートを発生する。当該緑肥は、サトイモ乾腐病の病原菌と同じ仲間である、ハウレンソウ萎凋病の発生抑制効果について確認されている。



緑肥による乾腐病対策を提案

標 題	ふるさと小包「土のめぐみ」発送に向けて		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年6月27日	場所	西条市内、喜多郡内子町	
指導対象	西条市生活研究協議会丹原支部 (25人)	連携機関	西条市	
普及指導内容	<p>○本協議会では、会員が生産した農産物と加工品の詰め合わせを「土のめぐみ」として県内外に発送している。中でも人気の高い漬物類の製造について、食品衛生法の改正により、衛生基準を満たす施設が必要となった。</p> <p>○当室主導のもと、役員会等で協議を重ね、会員の所有する空き倉庫をリフォームし、加工施設「土のめぐみ」を5月末に整備し、漬物類発送の準備が整った。</p> <p>○会員8人が内子町小田の『加工所みのり』で商品開発、加工所運営とふるさと小包発送等について研修した。</p>			
結果と今後	<p>○研修では同じ取組みをしている組織として活発な交流が図られた。</p> <p>○施設維持のため、「土のめぐみ」用の漬物の新商品開発を進めることとした。</p> <p>○発送は夏と冬の年2回、7月末には「土のめぐみ（夏便）」を発送する予定である。</p>			
				<p>左：「土のめぐみ」案内の発送</p> <p>右：『加工所みのり』での研修</p>

■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班

標 題	畑野集落で鳥獣害対策の検討を開始		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和6年6月11日	場所	四国中央市土居町 東畑野集会所	
指導対象	畑野（西畑野・東畑野）集落 (19人)	連携機関	四国中央市農業振興課	
普及指導内容	<p>○サルやイノシシの被害に苦悩する畑野集落から相談を受け、当班では、集落代表者等と連携し、集落で被害対策を進めるための検討会を開催した。</p> <p>○当日は、被害対策の基本技術を説明した後に、実際に被害を受けた農作物や場所を白地図に整理し、畑野集落の状況を可視化したうえで、活用可能な市単補助事業等を用いた効果的な対策について指導した。</p>			
結果と今後	<p>○出席者は出没状況等を可視化したことで、集落内の環境整備を進め鳥獣を寄せ付けない集落づくりの重要性を理解することができた。</p> <p>○一方で、対策の実施主体や経費負担のあり方など、検討すべき課題が明らかとなった。</p> <p>○今後とも集落関係者と連携し、トレイルカメラを集落内に設置し行動を把握するとともに、集落内の環境点検を行うなど、畑野集落の鳥獣害対策を効果的に進める。</p>			
				<p>左：鳥獣害対策の基本技術を説明</p> <p>右：被害情報を地図上に整理</p>

標 題	やまじ丸産地振興対策検討会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和6年6月21日	場所	JA うま総合経済センター	
指導対象	やまじ丸生産振興協議会員（12人）	連携機関	JA うま、四国中央市農業振興課	
普及指導内容	<p>○四国中央市の特産品であるやまのいも（ブランド名：「やまじ丸」）の産地維持・強化を図るため、やまじ丸産地振興対策検討会を開催した。</p> <p>○会議では、昨年度の活動実績の報告を行うとともに、それを踏まえた今年度の活動計画について説明し、具体的な活動内容等について検討、意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○出席者からは、省力化やPR活動などについて活発な意見があった。</p> <p>○特に、生産面ではアーチパイプを用いた省力支柱栽培実証試験に期待が寄せられた。</p> <p>○また、販売面では道後宿泊施設等での食事メニューの利用促進に向けた取組みを強化することとした。</p> <p>○やまじ丸は、近年の販売単価向上もあり昨年度は栽培面積が増加に転じるなど、生産意欲向上の兆しがみられる。</p> <p>○市単事業等を活用しながら新規栽培者の掘り起こしや栽培面積拡大に向けた取組みについて、関係機関が一体となり推進していくことを申し合わせた。</p>			
				<p>左：令和5年度の活動実績を報告 右：「やまじ丸」</p> <p>四国中央市で生産された県育成品種「やまじ王」をJAうまが商標登録、「愛」あるブランド製品の認定を受ける。</p>

■東予地方局 産地戦略推進室

標 題	石鎚黒茶の製造技術継承に向けて		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年6月19日	場所	東予地方局西条第2庁舎	
指導対象	石鎚黒茶協議会	連携機関	西条市	
普及指導内容	<p>○重要無形民俗文化財に指定された石鎚黒茶の製造技術の継承、生産振興、ブランド化に取り組む石鎚黒茶協議会の通常総会を開催した。</p> <p>○国の重要無形民俗文化財に指定されたことで海外からも注目されており、製造工程の再確認や新しい製造組織の育成、石鎚黒茶の活動をサポートする賛助会員を増やすなど協議会組織の体制強化を図り、GI申請に向けて準備を進めていくこととなった。</p>			
結果と今後	<p>○今年度は、新しい製造組織への製造技術継承のため、会員と相互に加工現場の確認を行うこととなった。また、教育機関への黒茶製造活動への参加呼びかけや地域行事でのPR活動などの協議会活動を支援する。</p> <p>○6月下旬から黒茶製造が開始され、今年度も約400kgの製造が見込まれている。</p>			
		<p>石鎚黒茶協議会総会</p>		

標 題	アムスメロンの貯蔵試験を開始		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年6月28日	場所	JA周桑貯蔵庫	
指導対象	JA周桑	連携機関	JA周桑、三井物産プラスチック株式会社、阪本薬品工業株式会社	
普及指導内容	<p>○年末の貯蔵メロンの試験販売に向けた予備試験として、春作メロンによるMA包装資材と保存料製剤による冷蔵貯蔵の実証試験を開始した。</p> <p>○2℃で5週間冷蔵保存したあと、MA包装資材から取り出して1週間室温で保存し、外観と食味を評価する。</p> <p>○昨年の実証試験で、冷蔵庫出庫後の果皮の劣化やカビを防ぐことができれば販売可能との結果が得られたことから、今回は保存料製剤の塗布を追加して取り入れて、実証した。</p>			
結果と今後	○この実証結果をもとに、年末商品の販売計画の樹立を支援する。			
				<p>左：冷蔵保存するアムスメロン</p> <p>右：冷蔵庫内で保管</p>

■今治支局 地域農業育成室

標 題	いちご若手生産者で技術研究会を発足		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年6月3日、6日、26日	場所	JAグリーン富田	
指導対象	いちご生産者（12人）	連携機関	JAおちいまばり	
普及指導内容	<p>○今年から、いちご生産意欲の高い若手生産者等12名が、収穫量7t/10aを目指して栽培技術を検証、協議する研究会を発足させた。</p> <p>○当日は、育苗ほ場を巡回し、高設栽培の栽培株を掘り取り、根域を調査するとともに、栽培システム別の適正なかん水量や養液濃度等について協議した。</p> <p>○また、育苗段階での植物体内の硝酸態窒素濃度が低くなっているほ場においては、適正な施肥管理等を指導した</p>			
結果と今後	○今後、メンバーである集落営農組織が12月に観光農園を開園するため、高設システムのかん水方法や養液濃度、培土構成を検証する実証ほを設け、安定した果実糖度が得られる栽培法等について協議する。			
				
若手栽培者による研究会の発足		ほ場巡回による課題の抽出		高設栽培株の根域を調査

標 題	特産なしをニホンザルから守るモデル園を設置		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年6月14日	場所	今治市古谷	
指導対象	なし農家（3人）	連携機関	岡山理科大学	
普及指導内容	<p>○昨年、ニホンザルによる壊滅的な被害を受けたなし園地の周辺を点検し、①園内への侵入経路となる樹木の伐採、②電気柵の設置、③ワイヤーメッシュや防護ネットの補強等の対策モデル園を設置した。</p> <p>○また、岡山理科大学獣医学部と協力してサルの行動を把握し、対策を協議するとともに、大学が開発した高周波発生装置を設置した。</p>			
結果と今後	<p>○園地に設置したセンサーカメラにはサル2～3頭の出没が見られたことから、周辺の点検を行うとともに私設電柱に有刺鉄線を設置するなど追加対策を行った。</p> <p>○8月中旬の収穫を終えるまで監視を続けるとともに、園主や岡山理科大学と連携して被害防止に取り組み、予防効果を検証していく。</p>			
  				
侵入経路となる樹木を伐採		ワイヤーメッシュの補強		防護ネットの補修と枝の切除

標 題	都市型集落営農組織のむらづくり活動を報告		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年6月5日	場所	今治市大西公民館	
指導対象	有限会社こんばら	連携機関	今治市、JA おちいまばり、株式会社新来島ドック	
普及指導内容	<p>○(有)こんばらが、令和6年度豊かなむらづくり全国表彰愛媛県代表となり、活動報告と現地審査が行われた。</p> <p>○大西町紺原地区では、「集落内に耕作放棄地を出したくない」との思いから平成16年に農業法人を設立し、農地の集積と有効活用による地域農業の維持発展に取り組んでおり、当室ではさといも等の収益品目の導入や担い手の確保・育成を支援してきた。</p>			
結果と今後	<p>○審査会では、地元造船会社と協力した地産地消の取組みや混住化が進む集落で地域住民と共存しながら営農活動を継続・発展させ、新たな担い手を確保した点が評価された。</p> <p>○同法人は、水田防除の効率化を進めるため新たにドローンを導入し、オペレーターの育成（3人）を計画しており、当室は、営農活動を通じた持続可能な地域づくりを支援する。</p>			
  				
発表に向け活動内容を整理		審査会で活動を報告		現地視察（新来島ドック食堂）

標 題	今治地区かんきつ生産者を巡回指導		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年6月10～27日	場所	今治市大西・朝倉地区	
指導対象	かんきつ生産者（42人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○管内の大西地区から朝倉地区までの範囲において、地区別にかんきつ類の高品質果実の安定生産を目指して摘果講習会を開催、品種特性や生育状況に合わせた摘果の方法、病虫害防除や今後の栽培管理について指導した。</p> <p>○特に、ハウス栽培（愛媛果試第28号、せとか）については、地区別に全員で各生産者の園地を巡回し、摘果、夏梢管理、枝吊りなど、生育ステージごとに適切な助言を行い、大玉果実を生産するためのポイントを指導した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からカメムシの大量発生による被害について懸念する声があった。</p> <p>○春～初夏の吸汁被害は見られなかったものの秋季の飛来も予想されるため、今後とも注力して関係機関と連携して情報共有を図っていく。</p>			



ハウス栽培園地を巡回



樹体の状況を確認



山間部の露地栽培園

■今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班

標 題	上浦地区再編復旧園の整備計画を協議		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和6年6月4日	場所	JA おちいまばり営農事業本部	
指導対象	上浦地区再編復旧関係機関（13人）	連携機関	JA おちいまばり、今治市、農産園芸課、農村整備課、農業振興課	
普及指導内容	<p>○再編復旧園の現況と今後の計画について共有することを目的に検討会を開催した。</p> <p>○農産園芸課からハウス整備について活用可能な事業の紹介、JA から基金事業のスケジュール、農村整備課から工事の工程について説明した後、意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○ハウス整備では、産地生産基盤パワーアップ事業の検討を行ったが、適用条件があるため、他事業の活用も検討していくこととなった。</p> <p>○今年度の基金事業はラジコン草刈り機と自動かん水設備を整備予定。工事が終了した園地には土壌流亡防止や土づくりを目的とした緑肥作物（ソルゴー）を播種する。</p> <p>○梅雨時期の降雨を見越した浸食防止対策として、承水路（ソイルセメント）を梅雨入り前に設置することとなった。</p> <p>○当室では早期の再編復旧がなされるように栽培指導を継続するとともに、スマート農業体系の構築、横展開を実現できるよう援助していく。</p>			



関係機関で共通意識を醸成



植栽園地で生育するソルゴー

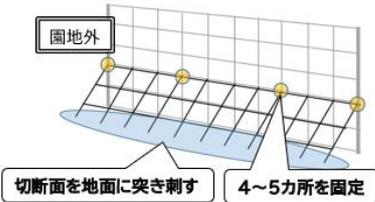
標 題	スリランカ農業人材の受け入れを協議		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和6年6月10日	場所	上島町岩城	
指導対象	(株)ブルーレモンファーム (代表 古川泰弘)	連携 機関	公益財団法人国際人材育成機構 (アイムジャパン) 農地・担い手対策室	
普及指導 内容	<p>○昨年から外国人労働者の受け入れ検討をしていた上島町の農業法人にスリランカ農業人材について必要な費用、技能実習生の現状等を説明した。</p> <p>○受け入れにあたり、人件費のほか管理団体経費、住居確保など国内人材より費用がかさむものの、同社では、6次産業化など事業の拡大に伴い労働力確保が急務となっており、受け入れについて前向きな意見が聞かれた。</p>			
結果と今後	<p>○受け入れに向けスケジュールなど調整した結果、申し込み手続きを行い1月に1人が来日することとなった。</p> <p>○実習生の住居は島内にある空き家を借り受けリフォームする予定であるが、農家負担が大きく、受け入れ拡大のために支援制度を設けてほしいと要望があった。</p>			
		<p>(株)ブルーレモンファーム(上島町)で スリランカ農業人材受け入れ協議</p>		

標 題	かんきつ類の摘果講習会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和6年6月26日	場所	今治市上浦町	
指導対象	上浦地区かんきつ生産者74人 (盛29人、井口25人、瀬戸崎20人)	連携 機関	JAおちいまばり	
普及指導 内容	<p>○管内のかんきつ類の主要産地の一つである上浦地区で、高品質、安定生産を目指して摘果講習会を開催し、品種特性や生育状況に合わせた摘果の方法、病虫害防除など今後の栽培管理について指導した。</p> <p>○当班からは、近年の温暖化等の影響により増加している日焼け果の対策を中心に、異常気象にも対応した栽培管理について説明し、立地条件等に合わせた対策を促した。</p> <p>○現地ほ場では「紅まどんな」「甘平」等の生育状況を確認しながら摘果のポイントを実演し、技術の習得を支援した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は移住者、新規就農者や女性農業者も多く、摘果に加えて枝梢管理や病虫害の適正防除等について積極的に質問するなど技術習得に熱心であった。</p> <p>○引き続き関係機関と連携してかんきつ類の高品質、安定生産を支援していく。</p>			
				
室内研修の様子		摘果のポイントを実演		

■今治支局 産地戦略推進室

標 題	「しまなみみんなのディッシュ」商品を県外企業に営業活動		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和6年6月7日	場所	株式会社愛媛海産本社（今治市天保山町）	
指導対象		連携機関		
普及指導内容	<p>○地元農産物を主原料とする「しまなみみんなのディッシュ」商品の販売促進のため、東京都に本社を置き、関東を中心に病院の給食提供や施設管理等を行うメディコム・ファシリティ（株）に営業活動を行った。</p> <p>○今回の活動は、当室が得た同社の情報（愛媛県産品に興味があり、取引実績もある）をもとに、事前に「しまなみみんなのディッシュ」商品の紹介と取引の打診を行った結果、実現したものである。</p>			
結果と今後	<p>○営業の結果、同社担当者は「施設の給食などに使いたい」とのことで、パスタソースやカレー等 13 商品 565 個、約 26 万円の取引が実現したほか、今後も他の商品を含めて購入を検討したいとの意向を示した。</p> <p>○引き続き同社に対し営業活動を行うとともに、「しまなみみんなのディッシュ」の会員に対し、新たな BtoB 向け加工品の開発を提案し、更なる地元農産物の販売促進と営業実績につなげる。</p>			
 <p>メディコム・ファシリティ（株）への営業活動</p>				

■中予地方局 地域農業育成室

標 題	モデル集落から広げるイノシシの被害対策		機関名	中予地方局地域農業室
年月日	令和6年6月18日	場所	松山市門田町	
指導対象	松山市門田町大室地区農家（10人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○鳥獣害対策技術を実証しているモデル集落において、令和5年度にワイヤーメッシュを補強した侵入防止柵の状況を確認した。</p> <p>○また、イノシシによるかんきつ園の被害状況を調査するとともに、農家に対して侵入防止柵のメンテナンス等の技術習得を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○補強した防止柵のかんきつ園では、イノシシの侵入や被害は確認されなかった。</p> <p>○このため、補強をしていない農家に対して、研修会等をとおして侵入防止柵の補強やメンテナンスの技術を指導する。</p> <p>○また、モデル集落の農家が新たに罫による捕獲にも取り組むこととなり、「守り」だけでなく「攻め」にも転じ、集落全体で総合的な鳥獣害対策を実施する。</p>			
  <p>左：補強を実施した侵入防止柵 右：補強の模式図</p>				

標 題	ユーカリ栽培技術の向上と有望品種の検討		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年6月3日、7日～13日	場所	JA 松山市川上支所、JA えひめ中央各支所等	
指導対象	ユーカリ生産者(99人)	連携機関	JA (松山市、えひめ中央)	
普及指導内容	○ユーカリの技術講習会を開催し、梅雨時期に排水性不良となるほ場では、株枯症が発生していることから、アースオーガを用いた縦穴による排水性改善技術を指導した。 ○また、ユーカリ類の周年出荷を目指し、流通が少ない春から夏にかけての出荷に向け、有望品種としてパルブラ種の試験出荷を開始した。			
結果と今後	○排水対策の技術導入希望者に対して、JA 担当者と連携しながらフォローアップし、株枯症の発生を低減する。 ○有望品種は、8月頃まで試験的に出荷し、市場の評価を調査する。			



左：生産者に対して技術講習
右：有望品種のパルブラ種

■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班

標 題	スマート田植機で省力化や効率化を体験		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和6年6月18日	場所	伊予市下三谷	
指導対象	「ひめの凜」認定栽培者、伊予地区 集落営農組織会員 (38人)	連携機関	県農林水産研究所	
普及指導内容	○水稲栽培におけるスマート農機の普及を図るため、直進アシスト機能及び可変施肥機能を備えた田植機による「ひめの凜」の田植えの実演会を開催。 ○水稲栽培での省力化や効率化が求められる中、スマート田植機の作業性や操作性を実際に体感してもらい、導入の足掛かりとした。			
結果と今後	○参加者からは、「直進アシストにより苗がまっすぐに植え付けられるので精神的に楽である」との声があった。 ○当班では、水稲栽培の省力化に向けドローンでの防除やほ場の水位センサーの利用についても実用性を検討しており、実演会等をとおして大規模経営の農家や集落営農組織におけるスマート営農体系の構築と普及を図る。			



左：スマート農機の実演
右：参加者による試乗

■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班

標 題	トマト新品種の導入について研修		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和6年6月12日	場所	久万高原農業指導班	
指導対象	JA松山市久万高原トマト部会員（16人）	連携機関	JA松山市、久万高原町営農支援センター、タキイ種苗	
普及指導内容	<p>○秋期の裂果による果実の品質低下に対応するため、裂果しにくい新品種「桃太郎みなみ」の導入を検討するため、当班の実証ハウスで栽培研修会を開催。</p> <p>○研修会では、品種の特性や栽培方法を説明し、実証ハウスで肥料やかん水の量、摘葉の仕方等の栽培管理を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は、従来品種よりも樹勢を強めに管理するなど「桃太郎みなみ」の特性や栽培状況を把握することができ、導入に関して前向きな姿勢であった。</p> <p>○当班は、新品種の実証栽培を継続するとともに、栽培管理に関する情報を随時発信する。</p>			



左：新品種の栽培方法を説明
右：「桃太郎みなみ」の生育状況

標 題	雑穀の生産拡大に向け苗を配布		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和6年6月18日～26日	場所	久万高原町上野尻、畑野川等	
指導対象	雑穀生産者9人（うち新規5人）	連携機関	久万高原町	
普及指導内容	<p>○雑穀の生産振興対策として、生産者9人に対し、当班で育苗した雑穀（こきび、たかきび、地とうきび）の苗（約4,300本）を配布した。</p> <p>○また、町内に3種類の雑穀栽培の実証展示ほを2か所設置し、生産振興を図った。</p>			
結果と今後	<p>○配布した苗の栽培管理を徹底し、良質な雑穀を生産する。</p> <p>○今年の栽培面積は約250a（昨年230a）となる見込み。</p> <p>○展示ほの設置により生産者の栽培技術の向上を図るとともに、新規栽培者の掘り起しも行う。</p>			



左：当班で育苗した雑穀苗
右：雑穀苗の定植作業

標 題	地域住民が雑穀を使用した「クマ式きび ² ナン」を調理		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和6年6月22日	場所	県立上浮穴高校	
指導対象	上浮穴高校生（5人）、地域住民（6人）	連携機関	県立上浮穴高校、久万高原町	
普及指導内容	<p>○上浮穴高校は、町内での雑穀の食文化を広げるため、地域住民を対象とした「上高カルチャー教室」を開催した。</p> <p>○同校が開発した、地とうきびの粉を練りこんだナンに、肉の代わりにたかきびを使用したカレーをトッピングした「クマ式きび²ナン」の調理方法を、参加者にレクチャーするとともに雑穀に関する活動を紹介した。</p> <p>○当班からは、雑穀に関するパネル展示や資料を提供し、雑穀の活用促進を図った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は、高校生との交流を深めながら調理や試食を行い、地域食材である雑穀への理解を深めた。</p> <p>○同校では、たかきびを代替肉として使用したカレーを応用したキャンプ用食品の開発も進めており、高校生のアイデアを活用しながら、新たな商品化を支援する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>調理方法をレクチャー</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>調理した「クマ式きび²ナン」</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>上浮穴高校生の活動PR</p> </div> </div>				

■中予地方局 産地戦略推進室

標 題	パクチー初夏播き栽培は生育順調		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年6月18日	場所	松山市、東温市、伊予市	
指導対象	パクチー新規生産者（6人）	連携機関	JA えひめ中央	
普及指導内容	<p>○新規生産者を個別巡回し、初夏播き栽培を指導。</p> <p>○生産者は、昨年度の「パクチー周年安定生産確立事業」(局予算事業)により確立した、標高別の播種期間を目安に、5月下旬～6月中旬にかけて段階的に播種を行った。</p> <p>○また、播種時期は降雨が多い時期のため、排水管理の徹底を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○6月中旬時点での生育状況は、発芽始めから本葉3枚程度となっており、発芽、生育とも順調。</p> <p>○今後、斑点細菌病防止のため、殺菌剤の予防散布を徹底する。</p> <p>○収穫は、播種後50日程度の7月上旬～下旬となる見込み。</p> <p>○7月3日に、生産者と関係者が参集し、栽培技術と販売方針等についての検討会を開催する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <p>左：初夏播き栽培ほ場（東温市河ノ内） 右：本葉3枚に育った株</p>				

標 題	シンテッポウユリの需要期安定出荷に向けて	機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年6月20日	場所	東温市川内、久万高原農業指導班
指導対象	シンテッポウユリ生産者（13人）	連携機関	JA松山市
普及指導内容	<p>○シンテッポウユリの需要期である彼岸時期の安定出荷に向けて、東温市と久万高原町（久万高原農業指導班）で栽培実証を行っている。</p> <p>○東温市の実証ほ場では、昨年度採花率向上に効果があった苗冷蔵処理について、冷蔵期間を2週間及び3週間として、5月末から6月中旬に定植を行った。</p> <p>○高冷地である久万高原町では、2品種（F1 オーガスタ EX、川上3号）の比較と定植時期の違いによる生育や収穫時期の実証に取り組み、関係機関と生育状況の確認を行った。</p>		
結果と今後	○引き続き関係機関と連携し、実証ほにおける採花率と収穫時期等を調査し、安定出荷に向けた技術確立を図る。		



左：定植前のセル苗（本葉3～4.5枚で定植）
右：定植作業

■南予地方局 地域農業育成室

標 題	「ひめの凜」の高品質生産を目指して水管理等を確認	機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年6月17日	場所	宇和島市三間町
指導対象	「ひめの凜」認定栽培者（15人）	連携機関	農産園芸課、県農林水産研究所
普及指導内容	<p>○「ひめの凜」の生育中期における水管理の留意点などを周知徹底することを目的に講習会を開催した。</p> <p>○室内講習のあと、現地ほ場において生育状況を観察するとともに、実際に茎数を計測し、中干しの適期であることを確認した。</p>		
結果と今後	<p>○現地ほ場の栽培者が、おいしさを追求するために独自に微量要素資材を投入している事例など、栽培者間でそれぞれの栽培管理について意見交換した。</p> <p>○栽培者からは、販売先の消費者の「ひめの凜」に対する味の評価は高いが、収益経済面からは収量も確保したいとの意見があり、品質と収量を両立できるような施肥方法等について関係機関と連携して検討していく。</p>		



左：室内での講習
右：現地ほ場講習

標 題	着果状況に応じたかんきつの摘果を徹底		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年6月24、25、27、28日	場所	宇和島市吉田町喜佐方	
指導対象	JA えひめ南生産者（63人）	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○今年産のかんきつ類の生産数量は、開花時点では前年並みを予想していたものの、「南柑20号」「不知火」「ブラッドオレンジ」「河内晩柑」等では一次落果が多い状況であったことから、結実状況に合わせた摘果方法を指導した。</p> <p>○また、一部の園地ではカメムシによる被害もあるため、園地の状況をよく確認してから摘果を実施するよう指導した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは、「摘果開始の判断はいつか」「落果が多かった原因は何か」など熱心な質問があった。</p> <p>○今後は、正品率アップにつながる枝の整理等についても指導することとしている。</p>			
				<p>左：着果状況に応じた摘果を実演 右：室内での生産と販売状況説明</p>

標 題	令和6年度第1回ニューファーマー講座の開催		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年6月27日	場所	南予地方局、宇和島市薬師谷	
指導対象	新規就農者（18人）	連携機関	JA えひめ南、宇和島市	
普及指導内容	<p>○新規就農者の専門的な農業知識や技術の向上とともに、Iターン就農者の定着促進のため、ニューファーマー講座を開催した。講座内容は、ITターン就農者同士の交流を深める意見交換会と参加者の関心が高い鳥獣害対策とした。</p> <p>○鳥獣害対策では、補助事業の説明後、防護柵を設置している園地を見学した。園主から設置のポイントや取組状況を聞いた後、ワイヤーメッシュ柵設置の方法について実習を行い、新規就農者が作業を体験した。</p>			
結果と今後	<p>○意見交換会は、参加者が積極的に意見を出し合い、心配事については共感の声が聞かれるなど、交流が深まり好評であったため、今後も講座に合わせて開催していく。</p> <p>○鳥獣害対策の実習では、「女性でも作業ができそう」「自分の園地でもやってみたい」など、対策の実施に前向きな意見が聞かれた。</p>			
				
園地での実習		作業を体験する受講生		Iターン就農者意見交換会

■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班

標 題	花粉用キウイフルーツのせん定技術を指導徹底		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和6年6月5日	場所	松野町内各地	
指導対象	キウイフルーツ花粉生産者（3人）	連携機関	松野町、果樹研究センター	
普及指導内容	<p>○キウイフルーツ花粉生産者のせん定技術向上のため、各ほ場を巡回し、せん定の個別指導を実施した。</p> <p>○第1回目のせん定講習は集合研修としたが、今回は1人あたり約2時間かけ、前半1時間はキウイフルーツの枝葉の伸展や着蕾、開花等の生育特性や、結果母枝の基部2芽残す等のポイントを説明し、せん定を実演した。後半1時間は生産者がせん定作業を行う傍らそばで、必要に応じて指導・助言した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは、「マン・ツー・マンで教えてくれたので、説明に集中できた」「手とり足とりの指導で分かりやすかった」等の声が聞かれた。</p> <p>○今後も、来年度の花粉収量の増加を目指して、引き続き肥培管理やかん水管理等を指導していく。</p>			
 		<p>左：せん定について農家に指導 右：芽が大きく膨らんだ枝を残す</p>		

標 題	「紅まどonna」の生育順調！		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和6年6月25日	場所	鬼北町成藤	
指導対象	紅まどonna生産者（2人）	連携機関	—	
普及指導内容	<p>○南予地方局予算で取り組んでいる「温暖化を逆手に取った鬼北地域での紅まどonna栽培実証」の一環で、管内栽培者に対する安定生産に向けた指導を進めている。</p> <p>○昨年度開催した「儲かる農業鬼北地区交流セミナー」の受講者の1人が新規導入を希望し、本年約3aに苗木を定植した。既存生産者を含む2人に対し、成木・苗木ごとの栽培管理や防除等を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは、「かんきつの病害虫は不慣れなため、実際に発生した病害虫やその防除法をまで教えてもらい助かる」等の声が聞かれた。</p> <p>○引き続き、新規生産者に栽培技術のきめ細かな指導を行い、高品質安定生産につなげる。</p>			
		<p>生産者に栽培管理指導</p>		

■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班

標 題	小中学生が愛南ゴールドを使ったフルーツパフェの調理体験		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和6年6月23日	場所	平城公民館	
指導対象	町内小中学生（15人）	連携機関	愛南生活研究協議会、平城公民館	
普及指導内容	<p>○食農教育活動に取り組む愛南生活研究協議会は、小中学生を対象に「食文化普及講座」を開催し、調理実習体験を通じた地域食材への関心と消費拡大を促した。</p> <p>○当班から、愛南町を代表する「河内晩柑」の栽培管理や生産概況についてクイズ形式での講習をした後、協議会員が「河内晩柑」をふんだんに使ったゼリーやフルーツパフェの作り方について調理実習を行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者から地域の農業や食材について熱心な質疑応答が交わされ、関心の高まりがみられた。</p> <p>○完成した「愛南ゴールドフルーツパフェ」は、参加者から好評であったことから、今後も地域の食材を活用した食農教育活動を同協議会と連携しながら実施していく。</p>			
				<p>左：講習を受ける小中学生 右：調理実習</p>

■南予地方局 産地戦略推進室

標 題	道の駅みま出荷者巡回		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年6月20～21日	場所	宇和島市三間町	
指導対象	道の駅みま出荷者	連携機関	道の駅みま	
普及指導内容	<p>○集客を見込む7月の「創業祭」に向けて、当室が推奨していた「珍しさ」や「味」に特徴のあるナスやスイカ、スイートコーン等を中心に、道の駅みま職員とともに出荷者を巡回した。</p> <p>○生育にバラツキはみられるものの概ね順調であることから、防除方法や収穫時期の見極め方など、栽培上の管理を中心に指導した。</p>			
結果と今後	<p>○ほ場によって生育状況のバラツキが判明したため、巡回頻度を高め、細やかな栽培指導を図る。</p> <p>○また、当駅の創業祭に向け、主要な作物ごとに簡潔な栽培マニュアルを出荷者用のバックヤードに掲示し、栽培技術の向上及び品質向上を図りながら、多様な品目が並ぶ売り場づくりを目指す。</p>			
		<p>「ふわとろ」長ナスの整枝等を指導</p>		

標 題	つるむらさきレシピ集の開発協議を実施		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年6月24日	場所	JA えひめ南本所	
指導対象		連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○認知度向上や販促活動の支援を行っている本品目について、市場関係者や消費者から「食べ方がわからない」「おいしく食べる調理方法を教えてほしい」といった要望が数多く寄せられていたことから、関係者が連携して、一押しレシピ集の作成に向けた試食会を開催した。</p> <p>○当日は、県、JA、生産者代表7名が集い、新規に考案した12種類のつるむらさき料理を試食して、写真撮影や意見交換を行うとともに、レシピ集のレイアウトやデザイン作成を支援した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「調理を通じて（品目特有の）香りや味がさらに良くなって美味しい」「梅や青しそ等との組み合わせで夏バテ防止になりそう」「冊子ではなく、その場で見やすいレイアウトにできないか」といった意見が挙げられた。</p> <p>○今後、これらの意見を参考に早急にレシピ集作成を進めるとともに、同JAが正式に定めた7月26日の「つるむらさき記念日」に向け、市場等を通じて量販店等にレシピ集等を提供し、効果的な販促活動に取り組む。</p>			





左：当日試食した12品

右：レシピ例

■八幡浜支局 地域農業育成室

標 題	ドローンを活用したスプリンクラー防除時の見回り作業の省力化		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和6年6月4日	場所	伊方町三崎かんきつほ場	
指導対象	かんきつ生産者（4人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○通常、スプリンクラー防除の際に、ノズルが正常に稼働しているか等、生産者がバイク等で見回り確認を行っている。しかし、雑木等に隠れて見えない場合など、歩いて確認する必要がある、生産者の負担となっている。</p> <p>○そこで、ドローンを活用して、この見回り作業が省力化できないか、実証を行った。</p>			
結果と今後	<p>○ドローンを活用することで、省力的にスプリンクラーの稼働状況を確認することができた。</p> <p>○この結果を受けて、生産者からは、実際にドローンを購入し、見回り作業に活用することを検討したいとの声が聞かれた。</p>			





ドローンで撮影したスプリンクラー防除の様子

標 題	外国人材活用促進に向けて		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和6年6月4日、11日	場所	愛南町、八幡浜市川上	
指導対象	外国人材活用意向農家等	連携機関	JAにしうわ	
普及指導内容	<p>○多様な人材活用によるかんきつ農家の労働力確保を図るため、管内のJAや農家が外国人材活用について検討しており、県内で最初にスリランカ人材を雇用している愛南町の法人で事例調査を行った。</p> <p>○受入れ状況や本人たちの意向を聞くなど、雇用にあたっての不安解消を支援した。</p> <p>○後日、監理団体に受入方法や手続き、経費などの詳細を確認し、活用を支援した。</p>			
結果と今後	<p>○技能実習生が働いている様子を伺い、懸念事項であった言葉や作業従事に問題がないことが確認でき、導入に向けて前向きに検討できた。</p> <p>○今後、年間雇用のスケジュールを組み、農作業請負方式も視野に入れながら、慎重に導入を進めていく。</p> <p>○八西地区では、外国人材活用を検討している農家が増えていることから、今後活用事例の紹介や制度概要など、受入れに向けた研修会を開催する予定。</p>			
				<p>左：施肥作業に励む技能実習生</p> <p>右：外国人材受入について検討</p>

■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班

標 題	規模拡大に向け自前のシソ乾燥作業をスタート		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和6年6月11～13日	場所	大洲市野佐来地区	
指導対象	農事組合法人 やさらい	連携機関	(株)ツムラ、JA愛媛たいき、大洲市、八幡浜支局農村整備第一課、(公財)えひめ機構	
普及指導内容	<p>○機構関連事業を活用して農地整備を実施中の野佐来地区の担い手「農事組合法人 やさらい」は、整備後のより有利な経営形態を模索しながら4年目の営農に入っている。</p> <p>○経営の柱の一つとして検討する薬用シソは、昨年、市の助成事業により施設を整備したこと、今春、(株)ツムラから乾燥機器一式の貸与を受けたことで、今期から自前の乾燥ができる運びとなった。</p> <p>○この日、(株)ツムラ、JA愛媛たいき、指導班が連携してやさらいへ乾燥作業を指導し、10a分の生体200kgのシソを3日間かけて20kgの乾燥シソに仕上げた。</p>			
結果と今後	<p>○良質なシソ乾燥品を得るには、投入量、乾燥温度、乾燥時間、乾燥むらを無くす繰り返し作業のタイミングなど、様々な要素が関係し、このノウハウの習得が必要となる。</p> <p>○指導班では、関係機関と連携し、やさらいのシソ乾燥技術の習得についての支援を続け、シソ栽培がやさらいの主要部門に定着するよう指導を継続していく。</p>			
				
シソの収穫作業		シソの乾燥作業		シソの選別・袋詰作業

標 題	いちご部会技術研究会で天敵防除を検討		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和6年6月28日	場所	JA 愛媛たいき	
指導対象	JA 愛媛たいきいちご部会役員(6人)	連携機関	JA 愛媛たいき	
普及指導内容	<p>○いちご部会技術研究会は、関係機関及び部会役員をメンバーに、天敵等を利用した IPM 技術、環境モニタリングによるハウス内管理、リアルタイム栄養診断による施肥改善、資材高騰対策など新たな取組みについて検討することを3月28日の役員会で承認。</p> <p>○第1回研究会では、天敵及び微生物資材利用技術を検討。育苗期のハダニ・うどんこ病防除対策と、本ぼ栽培のハダニ・うどんこ病・アザミウマ防除対策について、天敵等による一貫防除体系の実証を指導班から新たに提案した。</p>			
結果と今後	<p>○部会役員から、育苗期のハダニ防除に天敵(カブリダニ)を使用すると炭疽病の農薬が限定されるとの意見が出されたため、微生物資材による実証を行うこととした。</p> <p>○新たな防除体系の実証を7月から開始する予定。</p>			
 <p style="text-align: center;">第1回技術研究会</p>				

■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班

標 題	西予市で2戸の農家が家族経営協定を締結！		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和6年6月24日	場所	西予市役所	
指導対象	家族経営協定締結農家(2戸)	連携機関	西予市農業委員会	
普及指導内容	<p>○三瓶町と野村町の新規就農者から、パートナーシップ農業確立のため、夫婦間での家族経営協定を締結したいとの相談があり、協定の意義や進め方等を説明するとともに、協定書作成を支援した。</p> <p>○農業委員会定例会に合わせて、協定書贈呈式を開催し、農業委員らが見守る中、締結証明書が手渡され、当班より目指すべき農業経営の実現に向け激励の言葉を贈った。</p>			
結果と今後	<p>○西予市では、今回の2戸を加え99戸の農家が家族経営協定を締結している。</p> <p>○当班では、地域の担い手として活躍が期待される締結農家に対し、農業経営確立への取組みを支援するとともに、今後も家族経営協定の締結を推進していく。</p>			
  <p style="text-align: right;">左：締結証明書を贈呈 右：有馬夫妻と立合人</p>				

標 題	大野ヶ原にんにくの収穫作業を子供たちが体験！		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和6年6月17日	場所	西予市野村町大野ヶ原	
指導対象	西予市立大野ヶ原小学校児童（9人） 県立野村高校生徒（12人） 大野ヶ原にんにく組合（4人）	連携機関	西予市、(株) 祐	
普及指導内容	<p>○地域との交流を通じ、寒地系にんにく栽培への理解促進とPRを図るため、地元小学生・高校生を対象に収穫体験交流会を開催した。</p> <p>○交流会では、手掘りによる収穫や根切り調整作業の体験や収穫機械の実演を見学した。高校生からは、交流活動を通じ考案したにんにく加工品について発表があった。</p>			
結果と今後	<p>○児童からは、「手で引き抜くのは大変だったが、機械を使うと簡単で絶対に必要だと思った」「家族にも大野ヶ原にんにくを紹介したい」といった感想が聞かれた。</p> <p>○高校生による加工品開発は、関係者からの助言を基に、地元菓子店等と連携し今年度中の商品化に向け取り組むこととなった。</p> <p>○当班では、今後も交流活動等を通じ寒地系にんにくの知名度向上に取り組む。</p>			
				<p>左：高校生が加工品開発について発表</p> <p>右：新たに導入した収穫機械の実演</p>

■八幡浜支局 産地戦略推進室

標 題	さといも栽培講習会で管理ポイントを周知！		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和6年6月14日	場所	西予市宇和地区及び野村地区	
指導対象	さといも生産者（13人）	連携機関	JA ひがしうわ	
普及指導内容	<p>○生産者の栽培技術の向上のため、高収量につながる重要な栽培管理ポイントである、土入れ・水管理について指導した。</p> <p>○ほ場に設置している土壌水分計を用いてかん水のタイミングを説明し、畝間かん水の方法と葉を食べつくす重要害虫のセスジスズメ幼虫の捕殺を実演した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは、「土入れはどれくらいの量をマルチにのせたらいいのか」「かん水の目安はあるのか」といった質問がでるなど、栽培管理の意欲向上が見られた。また、新規栽培者の疑問には既存生産者がアドバイスするなど、双方の交流が図られた。</p> <p>○今後も関係機関と連携して講習会や個別巡回指導を行い、さといも生産者の技術向上を目指す。</p>			
				<p>左：土壌水分計を確認する生産者</p> <p>右：成長したセスジスズメ幼虫</p>

■農産園芸課 高度普及推進グループ

標 題	「さくらひめ」および花木の技術的課題について協議		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和6年6月25日	場所	県農林水産研究所花き研究指導室	
指導対象	花き調査研究会員（21人）	連携機関	県農林水産研究所花き研究指導室	
普及指導内容	<p>○「さくらひめ」および花木の生産性向上および各普及職員の技術力・指導力向上を目的とし、令和6年度第1回普及指導員花き調査研究会を開催した。</p> <p>○「さくらひめ」の生産販売状況について、各局支局から現状を報告し、協議を行った。</p> <p>○花き研究指導室の指導の下、種子繁殖、栄養繁殖について学び、「アカシア」の播種および挿し木実習を行った。</p>			
結果と今後	<p>○近年の燃料価格高騰による栽培コストの増大により、「さくらひめ」を高値で出荷できる時期に採花できていないことが問題として上がった。</p> <p>○実習を通して普及員同士情報交換ができた。</p> <p>○播種後、発芽したアカシアの種子については、希望者を参集し後日鉢上げを行う予定。</p>			
		<p>左：種子繁殖および栄養繁殖について説明 右：実習の様子</p>		

標 題	県育成水稲品種「ひめの凜」中干し講習会の開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和6年6月17日～6月27日	場所	県内4JA（のべ10回）	
指導対象	「ひめの凜」認定栽培者	連携機関	JA（全農、周桑、越智今治、東宇和、えひめ南） 各地方局・支局地域農業育成室 農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○当課では、「ひめの凜」認定栽培者を対象に、高品質・良食味生産のための栽培技術と認定制度を説明するため、栽培講習会を開催している。</p> <p>○今回は、生育中期の水管理（中干し）をテーマに実施。当グループからは、今後の気象予報と高温年の留意点について説明を行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、梅雨期の水管理や高温年の肥培管理について質問が寄せられた。</p> <p>○引き続き7月2日～9日に6JA（うま、えひめ未来、越智今治、今治立花、えひめ中央、松山市（のべ10回））で、同講習会を開催する。</p>			

【中干し】

目標茎数を確保した頃に落水し土壌を乾かすこと。無効分げつ抑制、有害ガスの除去、根の活力を高めるなどの効果がある。

【「ひめの凜」栽培者認定制度】

同品種の品質管理徹底とブランド米として普及・定着させるために設けられた制度。



室内研修



現地講習

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543